

岡山県

# せいきよう連 会報

2014年

新年号

謹賀新年

## CONTENTS

- 1 会長理事
- 2 岡山県知事
- 3～8 各界の方々
- 9～11 知事、議員、行政担当部署と  
懇談し、情報交換を行いました。
- 12 ポストIYCの取り組み
- 13～14 会員生協の組合員、役員、職員が  
交流し、学びました。
- 15～16 岡山県消団連、NPO消費者ネットおかやま  
とともに
- 17～19 会員生協のトピックス
- 20～22 会員生協紹介
- 23 岡山県生協連 紹介

# 新年のご

## 年始あいさつ



岡山県生活協同組合連合会

会長理事

**近藤 清志**

新年あけましておめでとうございます。

会員生協のみなさまにおかれましては、組合員の暮らしと健康、いのちを守り、生活文化や福祉の向上に向けてご奮闘されていることに、心より敬意を表します。

東日本大震災から4年近くが経過しました。今なお20万人を超える方々が避難生活を余儀なくされ、災害公営住宅建設の大幅な遅れや集团的移転事業は進まず、長引く仮設住宅での困難な生活、雇用問題や人口流出など、生活再建と復興はまだまだ途上の取り組みであり、復興支援と生活再建が一刻も早く行なわれることを要望し、引き続き様々な形で支援が必要となっています。

アベノミクスによる経済政策は、GDPなど一定の改善が進んでいますが、私たち消費者にとっては、収入が増えない中、公共料金や輸入原材料の値上げ等景気回復の実感はなく、4月からは消費税増税による負担増など暮らしへの不安を感じます。一方事業への影響も懸念され、その対策が急がれます。

急速な少子高齢化社会の進展は、地域コミュニティの崩壊や場合によって暮らしそのものが成り立たなくなっている地域も生まれています。高齢者の一人くらしは、全国で500万人にのぼり、認知症患者は460万人とも言われており、だれもが人間らしく安心して暮らすことが出来る地域社会の実現は、喫緊の課題となっています。

消費者行政の分野では、昨年に長年の願いであった「集团的消費者被害回復のための訴訟制度」が全会派一致で可決成立しました。

消費者庁ができ、消費者行政の充実・強化の課題が確実に進んでいますが、後を絶たない高齢者を狙った詐欺による高額な被害の発生は、地域での見守りネットワークの確立が不可欠であることを表しています。

資本の力ではなく人と人とが結びつく協同組合の基本的な価値をもとに、事業と活動を通じて、組合員のふだんの暮らしに役立ち、いのちとくらしを守り、だれもが安心して暮らすことができる地域社会の実現をめざして、取り組みを強めていきましょう。

行政や地域諸団体のみなさまには、今年も変わらせずご指導、ご支援を賜いますことをお願い致します。

最後になりますが、皆様にとりましてこの1年がすばらしい年となりますことを祈念致します。





## 「生き活き岡山」の実現を目指して



岡山県知事 **伊原 隆太**

新年あけましておめでとうございます。

年頭に当たり、岡山県生活協同組合連合会の皆様のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。

私が、「生き活き岡山」の実現を掲げ、知事の職に就いてから2度目の正月を迎えました。この1年、私は、岡山県をより良くしたい、もっと元気になりたいとの志で、一心に県政に取り組んでまいりました。企業経営とは違う課題の大きさや幅広さを知り、職責の重さを改めて実感するとともに、県民の皆様の幸せのため、岡山県の発展のために働けることの充実感も感じています。

去年は、私がかねて申し上げてきた「教育の再生」と「産業の振興」の2つの最重要課題をはじめ、本県の抱える課題の実態把握や分析に力を注ぐとともに、その解決に向けた「新しい種」をまいた1年でもありました。

まず、危機的状況にある教育再生には一刻の猶予も許されないとの思いから、小・中・高等学校を訪れ、現場の先生方の声を直接伺い、児童生徒に語りかけるとともに、県内全市町村の教育長との意見交換を行いました。

また、産業の振興については、企業ニーズの把握に努めながら、環境アセスメントの要件緩和や補助制度の拡充などを行うとともに、本県の安定した操業環境や交通利便性

などをトップセールスも交えて積極的にPRし、県南での大手洋菓子メーカーや、県北での真庭産業団地への企業立地につなげることができました。

これらの取り組みを進める中で、私は、岡山県の未来を見据えたとき、この2つの最重要課題を良い方向に動かすことが、子育て支援や医療・福祉サービスの充実、安全・安心を実感できる地域づくりなどに対しても、幅広い波及効果と将来に向けた好循環を生み出すことを改めて確信いたしました。

このたび、県議会や市町村、県民の皆様からご意見をいただいて改訂した「晴れの国おかやま生き活きプラン」では、こうした私の思いを盛り込んだ「教育県岡山の復活」「地域を支える産業の振興」「安心で豊かさが実感できる地域の創造」の3つを重点戦略とする平成28年度までの行動計画など、これからの県が進むべき道筋をお示ししたところで

す。今年、この新たな羅針盤に沿って、県政の基本目標である全ての県民が明るい笑顔で暮らす「生き活き岡山」の実現に向け、さらなる一歩を踏み出す年となります。「新しい種」を数多く芽吹かせ、大きく育むとともに、一つひとつ着実に成果を積み上げる1年となるよう全力を尽くしてまいりますので、県民の皆様には、ご理解と力強いご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。



# 新年のご

岡山県議会 議長 ・

岡山県議会 議長

渡 辺 英 気



平成26年の年頭に当たり、謹んでご挨拶を申し上げます。

岡山県生活協同組合連合会の皆様には、新春を清々しくお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

皆様には、日頃から、県民生活の安定と生活文化の向上に多大なご尽力を賜っているところであり、心より敬意と感謝の意を表します。

私ども岡山県議会は、住民に身近な県議会を目指し、公明正大な議会運営にあたっております。また、県政における最終的な意思決定機関としての役割を担い、県民の福祉の向上と県政の発展のため邁進しています。

我が国が東日本大震災という戦後最大の災害に見舞われてから2年9ヶ月が経過しました。我が国は戦後復興を国民の叡智によって乗り越えましたが、この被災からも再び復興するべく、地域再生の取り組みを加速させています。そして、東京オリンピックの開催が決定し、6年後は、被災地の復興を世界に示す機会となります。このような中においても、地方の活力なくして国の発展はありません。

この時代において、岡山県はどうあるべきでしょうか。

私は岡山県にはたくさんの宝があると考えます。

多島美の瀬戸内海と中国山地、そこに源を発する水の豊かな三大河川。豊かな自然と温暖な気候に恵まれ、自然災害が少なく、

暮らしやすいことも大きな魅力であります。

産業の面では、水島臨海工業地帯の企業群のほか、繊維産業など多彩で特色のある地域産業が形成されており、近年では、精密機械、医療機器などの先端産業も育っています。

教育の面では、岡山藩が設立した閑谷学校の伝統を受け継ぎ、岡山県は人材育成に大変熱心な教育県といわれ、未来を担う子供たちはまさに宝であります。

この他にも、岡山県には様々な宝があります。眠っている宝もあるでしょう。岡山県は、これらの宝を活かして10年後、20年後の未来に向けた基礎をつくっていかねばなりません。

また、政治は弱者のためにあるべきものです。これは政治の原点であり、弱い立場の方々のために何ができるのかを常に考えて行動しなければならないと考えております。

「未来に何かを起こすには、勇気と努力と信念を必要とする。」という言葉があります。私も議長として、私たちの孫子の代まで続く、より良い岡山の実現に向かって、全身全霊で職にあたっております。皆様におかれましても、より一層のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、新しい年が、皆様にとりましてご多幸の一年となりますよう、併せて皆様のご健勝を心から祈念いたしまして、新年のご挨拶といたします。

# あいさつ

## 会派代表のみなさま



民主・県民クラブ  
団長

三原 誠 介

住民・皆様と行政の連携で豊かで安心な暮らしを

県生協連の皆さまには、県民の生活が豊かで安心して暮らせるよう様々な分野でご尽力いただき感謝申し上げます。

政権交代により、新たな経済対策・景気対策が模索されており、地方の自治体や個人にその恩恵があるとすれば時間的な猶予が必要であり、当面、我々は限られた財源や収入で、施策展開や生活を維持していかなければなりません。岡山県では、新知事誕生から1年が経ち、伊原本知事による来年度に向けての本格的予算編成作業が進められています。

知事が提案する総合計画の柱にある教育の再生、産業の振興、地域の創造の推進に向け、さらには、県民局ごとの地域別構想の将来の姿に近づけるためにも、選択と集中、効果的な施策展開が必要であり、また、官民協働と地域の力を結集して、課題に立ち向かわなければなりません。

特に、皆様にお世話になっている生活難民の課題について、継続しての連携が求められており、中山間地域だけでなく都市部周辺でも、生活に身近な公共交通路線の空白地域が広がり、日常生活に不便が生じています。

県としても、新たな行政の羅針盤となる「晴れの国おかやま生き生きプラン」に、中山間対策推進プログラムを掲げており、人や物などの地域資源を生かした、みんなで支え合う元気な地域作りを目指そうとしています。

高齢化・少子化の社会は加速しており、中山間地域の課題解決に向けても行政と皆様と住民が更なる連携を強めて、自分たちで自立できる仕組み作りを求めています。

今年も、関係者の連携により安心して豊かな生活を、共に創造して参りましょう。



公明党 岡山県議団  
議員団長

景山 貢 明

新年明けましておめでとうございます。

岡山県生活協同組合連合会の皆様がいいつも地域の消費者や組合員の方々のくらしを支えるためのご努力をされていることに、敬意を表したいと思います。

さて去年は、TVドラマ「半沢直樹」の決め台詞「倍返し」が流行語大賞のひとつになりました。あまりテレビは見ないのですが、大手銀行の現場劇である「半沢直樹」を見る機会がありました。庶民の悔しさや、世の事なかれ主義との戦いなど面白いものでした。現実の世相も、是非逞しい明るい庶民の日々のくらしの展開を祈るものです。

また、国内外の諸情勢も油断のなら

ないものかもしれませんが、無責任な非難だけとか、単なる評論家で我々は終わってはいけないと思っています。私たち公明党は与党という重い責任もあり、是は是、非は非として毅然と前進していくことこそ国民政党であると信じて頑張らせていただいています。自民党に対しては、中央も地方も、主張すべきは堂々と、野党の皆さんへも聴くべき事は聴いて行こうと真剣に考えております。

今年がわが党にとって結党50周年です、「大衆とともに」の立党精神で頑張っていきます。

どうか皆様のご活動が県民のくらしの向上に寄与されますことを心よりお祈り申し上げます。



# 新年のご

## 岡山県議会会派代表のみなさま



日本共産党県議団  
議員団長

森 脇 久 紀

新年あけましておめでとうございます

岡山県生活協同組合連合会の皆様方には、くらしと健康、福祉の向上など様々な分野でご活躍いただいておりますことに心から敬意を表します。

昨年の県議会議員との懇談会では、会員生協の皆様方がいかに地域に根ざしてとりくみをすすめられているかについて学ばせていただきました。中山間地を多く抱える岡山県において、行政にはできないきめ細かな住民サービスの担い手として、協同組合運動の果たす役割がますます重要であることをあらためて深める

ことができました。

さて、自公政権誕生から1年。特定秘密保護法案の審議をめぐって、12月7日付「山陽新聞」は「国民の不安の声に向き合おうとしない強引な国会運営は巨大与党のおごりと言わざるを得ない」と書きました。その通りだと思います。加えて言えば、この1年余の消費税

増税、社会保障改悪、原発推進、TPP推進なども同様です。

一方、与党の暴挙に対して、短期間のうちに、あれだけ多くの国民のみなさんが声をあげました。ここには平和と民主主義を求める巨大なエネルギー、未来への大いなる希望を感じます。日本共産党は今後も、日本の政治と国民のくらしに日本国憲法を生かす「改革ビジョン」を示しながら、行き詰まった政治のもとで苦しめられている人々との連帯を強め、その苦難解決のために全力でがんばる決意です。

常に住民に根ざして活動する生協運動のますますのご活躍を期待しご挨拶とします。

## 3.11 を忘れない みやぎ生協から被災地・宮城のいまをお伝えします

### 数千人規模で起きた人口流出

震災後、沿岸部のまちでは2千人～3千人規模で人口が流出しました。もともと人口減少が続いていた地域ですが、今回の震災で急激な人口流出が進み、地域復興の不安材料となっています。とくに、今後地域のコミュニティ再生や産業復活を担っていく若い世代の流出は、大きなダメージです。

被災した市町では、それぞれ定住支援策を打ち出していますが、一度市町外に出て行った住民に戻ってきてもらうのは至難の業です。

南三陸町も震災後約2千人の住民が町外へ転出しました。現在、一時的に流出は収まっていますが、南三陸町企画課の大森隆市係長は「今後も就労や子どもの進学などでまちを離れる人が出てくるのではないかと懸念します。現在町外の仮設住宅で暮らす住民が「戻らない決断」をすれば人口減少はさらに加速します。

「これほどの震災ですから復興の最終形がどうなるのか正直分かりません。高上



▲造成工事の進む志津川東地区。住居のほか、役場庁舎や志津川病院や総合ケアセンターなどが建設されます。

げた土地に建物は建つのか、人は戻るのか、心配は尽きませんが、我々としては震災ですべて無くしたことを逆に機と捉え、今できることをやっていくしかありません」と大森係長は話をしてくれました。

千年に一度の復興は難問山積の上、人口減少というまちの活力を奪われる危機との闘いでもあるのです。



▲南三陸町企画課の大森さん。「震災前は1万7千人が住んでいました。現在住民基本台帳では1万5千人ほどですが、住民票を残して町外にいる方などを考慮すると実質1万人ほどじゃないかと思います」と人口実態について話します。

# あいさつ



## 新年のご挨拶



日本生活協同組合連合会

会 長

浅 田 克 己

新年あけましておめでとうございます。

岡山県生活協同組合連合会の役職員の皆様が、組合員のくらしを支えるために日々奮闘されておられることに、心より敬意を表します。

昨年はアベノミクス効果による円安の進行、株価の値上がりなどで大手企業、輸出産業を中心に業績が大きく回復しました。しかし、その一方で組合員の普段の暮らしは、電気料金の値上げ、灯油の高騰、食品の値上がりなど、以前にも増して厳しい状況が続いています。私たち生協はこうした現実にはしっかりと向かい合い、組合員の暮らしに寄り添い、地域でのつながりを広げ、より豊かなくらしを求めて、活動と事業を強めていかねばならないと思います。

東日本大震災から3年が経とうとしています。全国の生協の皆さんには被災地、被災者に寄り添い、力強く、そしてあたたかい支援を継続して取り組んでいただきました。福島子ども保養プロジェクトには、全国の皆さんにご協力をいただき、募金活動

や各地での子どもたちの受け入れ企画などを数多く取り組んでいただきました。また、被災地で懸命に努力されている現地の生協の活動を支えるための「ボランティア活動支援募金」へも大きなご協力をいただきました。ひきつづき全国の会員の皆様のご協力を、どうかよろしくお願いいたします。

震災支援の活動とともにこの間全国で広がっている取り組みは、地域のくらしを支える活動です。高齢者の見守り協定や、災害支援の協定はさらに広がりを見せ、配食事業の強化や移動販売車の活躍は地域とのつながりを深めつつあります。助け合いの組織として、地域社会を支え、地域コミュニティに参加する取り組みは、一層重要な活動となってきました。

本年は、17年ぶりに消費税が増税されます。厳しさを増す組合員のくらしを支え、継続して生協の活動と事業への組合員の参加を強めていかねばなりません。生協へのロイヤリティ向上とCO・OP商品への利用結集を広げるため、全国の生協でCO・OP商品の学習や普及のための活動をこれまでになかった規模で展開していきたいと思っています。各種のキャンペーンやテレビCM、組合員が主役の商品活動などを実現し、全国の会員の皆様と一体となって力を出していきたいと思っています。

最後になりますが、この1年が皆様にとって実り多い年になりますようお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。



# 新年のご

## 協同組合・友誼団



岡山県農業協同組合  
中央会会長

青江 伯夫

新年明けましておめでとうございます。

岡山県生活協同組合連合会の会員・組合員の皆様におかれましては、お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、昨年の後半には「和食」が無形文化遺産に登録され、日本の食文化が改めて世界に誇れることとなった反面、食品偽装や虚偽表示問題が発覚するという報

道もありました。

J Aグループでは、一貫して安全・安心な農畜産物を消費者の皆様に提供するため、日々営農活動にまい進しておりますが、越年交渉となったT P P、半世紀にわたって続いてきた生産調整（減反）の見直し政策への対応はもとより、農業者の高齢化や耕作放棄地の増加など課題

が山積しております。

これらの課題を一つひとつ克服しながら、本県が誇る米、桃、ブドウなどの果物、トマト、ナス、また千屋牛をはじめとする和牛や豚など、数え切れない種類の農畜産物を岡山県の宝として、今後とも生産と販売に傾注してまいります。

「将来に夢の持てる持続可能な岡山県農業」のため、新たな担い手づくり、「地産地消」の推進、また、次代を担う子どもたちへの農作業や調理体験による「食農教育」などに取り組んでまいります。

皆様と手を取り合い、このような活動に取り組みながら、協同組合運動の発展に向けて頑張っております。

今年一年が皆様にとりまして最良の年となりますよう、また皆様のご健勝をご祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。



岡山県漁業協同組合連合会  
代表理事会長

奥野 雄二

新年あけましておめでとうございます。

岡山県生活協同組合連合会ならびに会員生協の皆様には、お健やかに新年をお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。

また、昨年の新たな協同を目指した「協同組合交流会2013」の開催にあたりましては、貴連合会の熱心な取組により、各協同組合間の連携

強化と社会的な認知を高める新たなスタートを切ることができました。岡山県協同組合連絡協議会の一員として、心より感謝申し上げます。

さて、昨年は、10月以降、高級ホテルや老舗百貨店での食材偽装や誤表示などの虚偽表示が相次ぎ発覚し、社会的に大きな話題となりました。特に、水産物に関連する虚偽表示が岡山県でも発覚されたことに大きな衝撃を受けております。

岡山県漁連では、「地産・地消」と「食の安全・安心」の一層の推進・強化をとおり、虚偽表示防止に努めてまいります。

一方、本県の水産業は、昨今の著しい漁獲減少や水産物の生産価格下落、燃油や関連資材の高騰、養殖ノリの色落ちに見られる急激な漁場環境変化などにより、非常に厳しい状況にあります。

こうしたことなどから、おかやまコープ様のご協力を頂きながら実施しているアマモ場の造成の他、漁業者自ら、海底・海浜清掃を実施すると共に、様々な規制による資源管理や栽培漁業への取組を推進し、かつての美しく豊かな海を取り戻し、消費者の皆様方に安心・安全な水産物を持続的に提供していきたいと考えております。

昨年に引き続き皆様方のご理解、ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、岡山県生活協同組合連合会の益々のご発展と会員皆様方のご健勝を心からお祈り申し上げ、新年のご挨拶といたします。



# あいさつ

## 体代表のみなさま



(社)岡山県労働者福祉協議会  
会長

高橋 徹

新年あけましておめでとうございます。

岡山県生協連の皆様には輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

平素より、私ども岡山県労福協に対しまして、ご理解とご協力を頂き厚く感謝を申し上げます。

さて、一昨年末の国政選挙で再び自民党政権が復活し、2009年以前に逆戻りしました。そして、公共事業へ大規模な財政を投入し「人からコンクリート」路線を復活さ

せ、法人税の減税など企業重視の「成長」戦略を進める一方、生活保護基準の引き下げ、抜本的な社会保障制度改革の放置、さらには労働法制の規制緩和など新自由主義的性格を再び強めようとしています。このような政策は、不安定雇用労働者の増大、労働者間の分断、さらなる格差の拡大、世代間の貧困の連鎖の固定化、ひいては社会の底割れにつながることが危惧されます。こうした状況の中、「アベノミクス」などで景気は回復

基調とされていますが、私たち勤労者・生活者を取り巻く環境は依然として厳しく、4月からの消費税増税によって、なお一層厳しさを増すものと予測されます。

一方、東日本大震災から2年9か月が経過しましたが、被災地での復興・再生は遅々として進まず、多くの人々が避難生活を余儀なくされています。

今回の巨大地震、津波、原発事故は社会・経済・政治の在り様、価値観を根底から問い直しています。私たちに「自然の前に科学技術は限界がある」「経済成長は人間の幸せのためにあり目的ではない」ということを突き付けました。他方、この危機の時に、人と人とのつながり、支え合い、助け合い、連帯が社会の基本であることを改めて実感させられました。

このことは、県労福協や県生協連の運動理念とも一致するものであり、その中で、県労福協も、県生協連と更に連携を強化し、「連帯・協同でつくる安心・共生の福祉社会」の実現に向けて運動を推進していく所存であります。今後ともご理解とご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、県生協連の益々のご発展と、皆様方にとりまして最良の年になりますようご祈念申し上げ、新年のご挨拶と致します。



(社)岡山県婦人協議会  
会長

土屋 紀子

新年あけまして、おめでとうございます。

岡山県生協連の皆様には輝かしい新春をお迎えのこととおよろこび申し上げます。

平素より岡山県婦人協議会に対しましては御理解と御協力また大きなお力を頂いておりますこと心より感謝致しております。

今私達をとりまく世界情勢は大きく変化しております。国内でも東日本大震災を機に、災害についての心の持ち方が一変致しました。今です 私達女性が立ち上がるのは…。一人ひとりが豊かなつながりの中で快適に、いきいきと生活できる地域社会の形成に向けて赤ちゃんから高齢者の方々まで住んでよかったといえる地域にしたいと婦人協議会のだれもが願っております。

そのためには賢い消費者を目指しきずなを深め乍ら笑顔を忘れず一步一步ではありますが奉仕の種をまいていきたいと強く思っております。

終わりにになりましたが岡山県生活協同組合連合会の皆様方の日々のご苦労に対しまして、感謝申し上げますとともに、今後益々の御発展と皆様方の御健勝を念じ新年のご挨拶とさせていただきます。





# 話し、情報交換を行いました。

## ●第25回 岡山県議会議員のみなさまとの懇談会を開催【11月29日(金) オルガホール】

12月議会開会日の初日、全会派11名の県議会議員のみなさまにご出席いただき、懇談会を開催しました。県生協連からは、12名が出席し、開会にあたり近藤会長より、25回目を迎えたこと、今回のテーマの意味などにふれて挨拶を行いました。

### 【県議会議員の出席者 11名】

|          |         |         |
|----------|---------|---------|
| 自由民主党    | 加藤浩久議員  | 戸室敦雄議員  |
|          | 青野高陽議員  | 太田正孝議員  |
| 民主・県民クラブ | 三原誠介議員  | 高原俊彦議員  |
| 公明党      | 景山貢明議員  | 笹井茂智議員  |
| 日本共産党    | 森脇久紀議員  | 氏平三穂子議員 |
| 県民・緑     | 横田えつこ議員 |         |



左から加藤議員、戸室議員、青野議員、太田議員、三原議員



左から高原議員、景山議員、笹井議員、森脇議員、氏平議員、横田議員

参加された県議会議員のみなさまから自己紹介とともに生協への思いや期待などにふれられ挨拶を頂き、今回のテーマ「地域社会づくりへの参加」にもとづき、各会員生協での具体的な取り組み内容をパワーポイントを活用して、県生協連の規模、協同組合交流会、ヘルスチャレンジ、地産地消、夕食宅配、生活支援サービス、包括連携協定、健康づくり、まちづくり、災害対策、ボランティア、防災体験等について、報告しました。

### 《議員の方から頂いたご意見や励まし》

- 買い物袋の有料化にむけて、COOPが早く取り組みをはじめた。イトーヨーカ堂など有料化がはじまっている。今後の方向性について、リーダーシップの発揮を
- 夕食宅配 他企業もはじめています。かなりのエリアをカバーしてきています。生協として今後の対策。生活支援サービスとしての紹介について。
- 地産地消 商品開発 消費者と生産者をつなぐ重要な役割、今後の考え方について
- 自治体と連携しながら弱者対策。瀬戸内市との協定。自治体の集会所を拠点化。どうやって進めていくのか。
- 玉島協同病院の高台への移転 一方団地などのバス路線の問題もあり、通院する人の足について。
- 配食サービスの希望が一番。県北の国道沿いは行われているが、そうでないエリアでの配食サービスの今後の取扱いについて、宅配サービスについて
- 表示問題 食の安全安心、食育の条例を制定している。資本でなく協同組合間協同、連携が本当に必要。協同組合の価値、取り組みが進むことを期待。
- 生協の組織が大きいので、対応するのは自治体となるが、日常的に生活をする場は地域。災害が発生したときの避難の問題、町内会などの小さい組織との連携をどう考えているのか。
- 要求を頂き、整理して議会で検討していく。過疎の問題等買い物難民、夕食宅配などの取り組み。年1回の懇談会の重要性を感じる。今後もしもいっしょに取り組みを進めていく。
- 行政の立場として安心・安全を言い切れない。食材などの安全について信頼の継続を。

## ●第29回 中四国生協行政合同会議を岡山県で開催【9月5日 ホテルグランヴィア岡山】

第29回中四国生協行政合同会議が『「地域づくり」への参加と協同』をテーマとして70名の参加で開催されました。日本生協連小泉常任理事より開催挨拶が行われ、続いて木幡岡山県副知事より開催県として、昨年の国際協同組合年、食の安全、環境問題、消費者問題等に対する取り組みへの評価や生協への期待、消費者被害撲滅やアマモ再生などにふれ、生協と行政との連携を進めていくことなど挨拶が行われました。



高田参事

岡山県生協連近藤会長よりこの間の経過およびテーマの説明を含めた挨拶を行いました。

厚生労働省中国四国厚生局健康福祉部高原課長から、東日本大震災での復興支援の取り組みへの評価や員外利用の対応、安心して暮らせる社会にむけて期待していることの挨拶が行なわれ、各県行政からは、消費者行政の取り組みや生協に期待することなどの報告がされました。

特別報告として、「全国の地域づくりへの参加の取り組み」をテーマに日本生協連青竹本部長より、2020年ビジョンで「地域社会づくりへの参加」について位置づけをしたこと、生協の事業のインフラを活用した地域社会づくりへの参加、安心して暮らせる地域のネットワークづくりなど重点としていること、自治体との協定による取り組みなど報告されました。



吉田参事

岡山県くらし安全安心課吉田参事からは「消費者被害撲滅の取り組みと見守り」として、消費者被害撲滅キャンペーンの取り組みや消費生活懇談会、消費生活サポーター講座の取り組みを進めていることなど報告がされました。

活動報告として高知県生協連より「高知県の地域見守り協定への参加と県内生協による見守り活動」をテーマに、7者で地域の見守り協定を締結したこと、県内の見守り活動の事例や医療生協のひとりぼっちの高齢者をなくす取り組み等報告されました。

広島県生協連からは「広島県における地域ささえあい活動の展開」をテーマに、3つの区との地域福祉包括協定の締結、広島県・広島市をはじめとする災害物資協定の締結、モデル事業など報告されました。

おかやまコープからは、「瀬戸内市との包括連携協定の締結と取り組み」として、4者によるアマモ場造成活動に係る協定の締結や瀬戸内市との包括連携協定では地産地消、災害時連携、環境保全、地域福祉など幅広い分野で緊密に連携協力を進めていくこと、具体的に農業参入、障がい者支援、高齢者見守り、災害時対応、買い物支援、助け合いなどについて報告されました。

次回開催県からの決意表明と閉会挨拶を行い、終了しました。

試食交流会では、国指定重要無形民俗文化財「備中神楽」の勇壮な舞が行われ、県農林水産部農政企画課吉本室長より、料理に使用されている県産品の紹介、くらし安全安心課折居実課長が挨拶と乾杯の音頭を取り交流会を開催しました。



木幡副知事



## ●津山医療生協、安場参与が厚生労働大臣表彰を受けられました。

生協法施行65周年にあたる今年度、長年にわたり健全な事業運営を行い、他の模範と認められる生協及び役員に対して厚生労働大臣表彰を行うもので、団体として津山医療生協、個人で安場靖参与が表彰されました。津山医療生協は、県北での33年間の活動の成果や新診療所建設、地域医療の最先端を担う家庭医の養成など取り組みを進め、安場参与は、大学生協、地域購買生協の活動そして、平成12年から県生協連常勤専務、19年から会長となられるなど、津山医療生協、安場参与ともに、県内生協運動の発展に貢献されてきました。





# ポストIYCの取り組み

## ●岡山県 協同組合交流会2013『新たな協同を目指して』を開催。【7月24日 メルパルク岡山】

昨年の国際協同組合年の取り組みを踏まえて、4つの連合会が主催して協同組合交流会2013を100名を超える参加者で開催しました。

オープニングは、JAまにわ職員による力強いYosakoiソーラン踊りが行なわれ、JA岡山中央会青江会長より、協同組合デーや協同組合の役割にふれられ開会挨拶が行なわれました。来賓として就実学園理事長千葉喬三さん、岡山県農林水産部次長妹尾正己さんから挨拶を頂きました。

三重大学名誉教授 石田正昭さんから「新たな地域コミュニティへの協同組合の関与」と題して講演をしていただきました。協同組合の役割について、組合員のために活動を行うと同時に周りの人々に対する関与、地域社会に責任をもつ協同組合としての目的がある。みんなの幸せづくりの取り組みを求められ、協同組合の事業と活動の展開で実現してほしい。また、組合員の参画で協同組合地域社会づくりを目指すことが必要であり、現実の協同組合運動としてどう展開していくのかの視点から、組合員の学習活動を強化していくことが大切であることを話されました。

美作東備森林組合から「百年の森林づくり」をテーマとして、村と森林組合と民間とで提携し直接販売を進めていること、西栗倉のファンづくりの取り組みや間伐、六次産業化の取り組みの報告が行なわれました。



おかやまコープ

おかやまコープから「協同の力で広がるアマモ場再生のとりくみ」をテーマとして、もずく基金での珊瑚礁再生の取り組みや「アマモ場造成活動に係る協定」を岡山県、日生町漁協、里海づくり研究会議、おかやまコープの4者で結び、再生活動へ直接参加するなど支援活動を進めてきたことの報告が行なわれました。

岡山県漁業協同組合連合会から「植樹・海浜清掃・魚食普及への取組」をテーマとして、森と海をつなぐ植樹、海浜清掃、親子おさかな教室、郷土料理伝承講座など魚食普及への取り組みについて、報告がおこなわれました。

岡山県農業協同組合中央会からは「協同を通じた地域とのつながりづくり」をテーマに「次代へつなぐ協同」として多様な組合員の思いを実現するために、生活文化、食農教育、農業体験などを進めていることなど報告が行なわれました。

岡山県生協連近藤会長より、引き続き各連で連携した取り組みを進めていくことなど閉会挨拶を行い、終了しました。



Yosakoiソーラン踊り



石田先生



全体風景

## ●国際協同組合同盟（ICA）総会が、史上初めてアフリカ大陸で開催されました。

【2013年11月1日～5日】

国際協同組合同盟（ICA）総会が、南アフリカ共和国のケープタウン・国際コンベンションセンターで開催されました。アフリカ大陸での開催は、100年を超えるICA史上初めてです。88カ国から1,100名が参加し、「協同組合の10年に向けたブループリントの実行」をテーマに、各国協同組合の報告や意見交換が行われました。



11月3日午前開催されたICA総会の開会式では、ICAポーリンググリーン会長が、「ICAの100年を超える歴史の中で初めてアフリカ大陸でICA総会が開催される意義と、アフリカで協同組合が果たす役割」をあいさつの中で強調しました。今総会で日本の全国農業協同組合中央会(JA全中)萬歳会長を含む15名の新理事が選出されました。



# 会員生協の組合員、役員・

## ●県生協連・会員生協役員研修交流会【1月11日 オルガホール】

生協役員研修会を59人の参加で行ないました。岡山県県民生活部くらし安全安心課渡辺課長より国際協同組合年の取り組みにふれながらご挨拶を頂きました。

「国際協同組合年を超えて」と題して日本生協連専務理事芳賀唯史さんから、政府に求められていた8つの項目について、日本の政府がどのくらい実施したのかの振り返りが必要であること。世界各国で、近年の危機に対する対応例や、平時時でも発展していることから協同組合の優位性について話されました。また、後継組織をつくることや「協同組合憲章」の国会での決議など、単年度で終わるのではなくこの数年間が必要であることが理解できました。

12次中期計画は、2020年ビジョンを実現していくための第一期計画であり、過半数組織を実現していくためのプログラムとして、3つの視点から話をされました。

「おかやまの魚と食文化について」と題して窪田福寿司会長から、瀬戸内海がその歴史や地形から豊かな漁場となっていること、児島湖が有数の漁獲量であることや魚種が多いこと、岡山県の魚や料理や食文化について、お話し頂きました。またさわらやひらなど具体的な料理方法も含めて紹介頂き、興味深いお話しとなりました。



## ●組合員活動交流集会【1月28日 オルガホール】

9会員生協171名が参加し「安心して暮らせる地域社会とネットワークづくり」をテーマとして開催し、川崎医療福祉大教授新井宏さんから講演して頂きました。人口減少社会、少子高齢化の急速な進展の中、地域機能の崩壊、人と人とのきずなの希薄化、地域生活の深刻さ、将来不安が増大している。こうしたことに対して、地域包

括ケアシステムの構築が必要となっていること。街づくりにむけた協働活動の形成や生協と福祉分野（社協）の連携の展望などを講演頂きました。参加者からは、「地域で一体となって見守りのネットワークづくりが必要なのが分かった」「過疎地でのお年寄りの生活は本当に大変だと思います。我々がその年代になるまでに対応できる地域づくりになったらと思います」などの感想が寄せられました。

日本生協連 尾崎靖宏さんから、生協が果たす5つの重点的役割や、全国の生協の先進的な取り組み事例として、安心見守り協定・ステーション・配食・移動店舗や、「ひ

とりぼっちにしない、孤独死を出さないまちづくり」への挑戦として、東京杉並の実践について、報告されました。

津山医療生協からは、診療所新築移転に伴って、全組合員アンケートや設計会社との話し合い、応援団の呼びかけや地域訪問、地域の中で総合的なネットワークの一環を担うことなど報告が行なわれました。

おかやまコープから「一人ぼっちをださない」をテーマにお食事会の開催、ふれあいサロン、地域での居場所づくり、子育て広場、おしゃべりパーティなどの報告が行なわれました。

## ●監事研修会【2月26日 オルガ】

岡山県生協連として初めて監事研修会を開催し会員生協から13名が参加しました。

おかやまコープ赤坂常勤監事より、生協におけるガバナンスに関連した重要な課題として監事監査の環境整備、2012年度監査報告書での問題点や監事監査基準モデルの改訂内容及び監事監査規則例について、説明が行なわれ、質疑応答を行ないました。限られた時間の中で、解りやすく説明していただき、監事のあり方や役割、責任、基準モデル等理解でき、「改めて監事の役割の大きさを確認できて、とても有意義でした。」などの感想が寄せられました。





# 職員が交流し学びました。

## ●愛知県生協連(南医療生協、コープあいち)研修報告【11月14日～15日】

県生協連役員他生協研修として愛知県にて研修を行いました。

愛知県生協連から会員生協の状況や県連として事業を行っていることなど説明され、南医療生協から、地主が南医療生協にきてもらいたいとの働きかけがあったこと、土地を借りて高齢者住宅もつくる。南病院3年目で6.5%の剰余確保できていること、新しい患者も広がり、組合員71,000人によって支えられていることの挨拶が行われました。



レストラン

多くの声をもとに運営が行われ、自分たちで実現するために、資金集め、ボランティアとしての参加などの形態に結びつけていくことや考え方の共有化の場として行われていることなど学びました。



足湯があるデイサービス

取り組みについて学びました。

南生協病院は建設にむけて毎月1,000人会議を開催し45回の会議を積み上げ、具体化してきたこと。地域などでの対話はのべ107,099名となり、声を集めて病院建設に反映させ様々な施設や病棟を実現させてきた。現在は「南医療生協の近未来構想」をつくるための10万人会議を開催。また、まちづくりの視点から支部の活動が展開され、たすけあいのネットワークが作られ、一人暮らしの方への対応や体操、健康チェックなどが行われているこの話がされました。



南医療生協 成瀬専務

コープあいちの福祉事業について、豊橋市では、2か所の地域包括支援センターを受託し、相談や予防プランの作成を行っている。ケアコープ豊橋は、福祉サービス豊橋北があり、居宅・訪問介護とともに24時間定期巡回、訪問介護、訪問看護を行ない、地域包括支援センターを運営している。訪問した福祉サービス豊橋中央は、居宅・訪問介護と地域包括支援センターを運営。

コープあいちでは、行政との関係づくりが進んでおり、包括支援センターの受託や「地域の絆」創生プロジェクト、行政の検討委員、相談員派遣事業など行われている。地域にねざし、総合力と事業ネットワークをいかして福祉事業の黒字化を実現するなど組織的な

## ●宝塚医療生協研修【11月22日 宝塚医療生協 本部】

医療部会中心に宝塚医療生協に研修に伺いました。宝塚医療生協茅野理事長から「高齢者にやさしいまちづくり」プロジェクトを立ち上げ、市担当課、市長と懇談した。

市長の公約及び施政方針でWHOが提唱するエイジフレンドリーシティのネットワークに参加することの表明や、宝塚市まちづくり協議会では、個々のつながりをいかして参加していくことが必要であることなど話されました。

宝塚市の担当室長から経過および現在の状況について説明され、市長の公約、施政方針の中でWHOの取り組みに参加することを表明したこと、「高齢者を社会参加ができる人たちとして見ること、元気になることが医療費の削減につながり、政策的にも意味があること」を学んだ。高齢者になってもしあわせに生きることができる環境、就労、社会参加について作っていくことの話がされました。研修を通じて常に行政とのパートナーシップの視点を持ち、協働事業として進めていくこと、WHOに登録することの意味について明確にしておく必要があることなどを学びました。



## ●2013年度県生協連医療部会組合員活動交流集会

【9月21日津山医療生協・平福診療所】

43名(岡山16名・倉敷12名・津山15名)が参加して、「事業所と組合員が一緒に取り組んだこと」をテーマに医療生協の組合員活動交流集会を開催しました。各単協報告として倉敷「認知症サポーターステップアップ講座の取り組み」岡山「組合員と一緒に取り組む健診受診・駅元診療所」津山「新築移転事業での組合員・職員協同の取り組み」を行い、グループ交流をしました。



# 岡山県消団連、NPO消

## ●第27回 岡山県消費者大会【10月29日 オルガホール】

第27回岡山県消費者大会を開催し、16団体205人が参加しました。

岡山県消団連代表幹事近藤幸夫弁護士から、消費者庁を支えるために消費者が発言し、消費者行政が私たちのためになるように働きかけていくことなど開会のあいさつが行われました。



消費者庁阿南長官

消費者庁阿南長官から「消費者行政のいま、そしてこれから」と題して講演をして頂きました。食品表示法は消費者の権利の尊重や自立支援の視点を入れた法律であること。消費者教育推進法は、消費者の自立を支援するための教育や啓発活動を進め、適切な行動に結びつける実践的能力の育成を目的としている。現在行っている取り組みとして、消費者への注意喚起や事業者に対する是正を求めていることなど説明されました。

また、今年度の重要課題として、消費者力向上支援や地域力の強化、物価モニターの導入や食品ロス対策、風評被害に対する取り組み、消費者被害防止、地域ネットワークの構築などお話し頂きました。

最後に子どもを事故から守るプロジェクトのテーマソングにあわせて、「おしえてね アブナイカモ」の歌と踊りを披露されました。

団体報告では、JA岡山県女性組織協議会から「日本の食とくらし、命を守る取り組み」をテーマに、TPP交渉反対の取り組み、倉敷

医療生協からは、「サポーターからパートナーへ ～認知症の取り組みはまちづくりの取り組み～」、おかやまコープからは、「瀬戸内市との包括連携協定の締結と取り組み」として、瀬戸内市との幅広い分野での包括連携協定を締結した取り組みについて報告されました。

大会宣言案を拍手で確認し、消費者が主役になる社会をめざして、いろんな団体で心を一つに取り組むことの閉会挨拶を行い、終了しました。

参加者からは、「私達も力をつけ、積極的にによりよい社会をつくることに参画、行動したいと思います。子ガモの長官がかわいかったです。」「阿南さんがいっしょうけんめい話をされるので、思いが伝わってきました」など長官の講演内容はもとより、その人柄と真摯な姿に多くの共感が寄せられました。



近藤幸夫代表幹事



JA岡山県女性組織協議会



おかやまコープ

## ●消費者月間 記念講演会を開催しました。【6月1日（土） 岡山県立図書館】

消費者ネットおかやまと岡山県消団連の共催で、消費者月間記念講演会を開催し、88名が参加しました。

県消団連代表幹事近藤幸夫さんより、悪徳な業者を排除することや公正な社会にしていくこと、消費者力を高める取り組みを進めることなどの開会挨拶が行なわれました。

岡山県消費生活センターから、健康食品の被害が増加していること、懸賞サイトから個人情報が伝わり膨大な請求がされていることなど相談事例を説明していただきました。

弁護士加藤進一郎さんから、テーマ「だましのテクニックとだまされないテクニック」で講演をして頂きました。これまでの詐欺の経過から最近の劇場型、被害回復型に変化してきたこと、複数の搭乗人物や偽の機関、専門家が出てきて信用させ、



講師 弁護士 加藤進一郎さん



# 費者ネットおかやまとともに

いなくなる。だまされる側の心理を利用することや、だまされた人のリストが流れている。未公開株詐欺事案について、バーチャルオフィスをつかうケースなど詐欺者の手口について紹介されました。

参加者の感想として「自分の問題として、少し意識することが出来たと思う。投資はしないとしっかり頭に入れました。」「大変分かりやすく良かったです。学ぶことは常に必要だと思いました。」「来館者のお一人との会話からこの講座を知り即参加しました。」など大変良かったとの声が多数寄せられました。



## ●消費者被害にあわないために【11月9日 岡山県立図書館】



ECネットワーク原田由里さん

岡山県消費生活センターから、情報通信に関する相談内容についてお話し頂きました。

原田由里さんからは、「今どきのネット・ケイタイに潜む落とし穴」をテーマに講演して頂きました。スマートフォンのアプリについて、個人情報や渡してしまう危険があること。ワンクリック詐欺、出会い系サイトに起因する犯罪として、中学生、小学生の被害の割合が高くなっている。絶対してはいけないこととして、不特定多数に公開しないことや適切な設定をすることを話されました。また、個人情報やわかる例としてブログで写真をのせると位置情報などで住所がわかること、フェイスブックやツイッターでの写真も特定する人があるなど問題点について説明されました。コミュニティサイトの悪用として、前田敦子のマネージャーを語り116億の被害が発生。さくらサイトで「話し相手になってくれたら遺産をあげる」などの被害事例を説明されました。

参加した方からもスマートフォンのこと、様々なトラブル事例や対策、注意点について、よく分かったとの声が寄せられ、参加者にとっては貴重な講演となりました。

## ●消費生活サポーター講座 NPO消費者ネットおかやま

岡山県からの委託事業を消費者ネットおかやまが受託し、「消費生活サポーター講座」を開催しています。12月までで、18会場825名の受講者となりました。参加者からは「詳しく分かり易い話し方でしたので、心当たりもあり、受講して良かったと思います。」「近所の人にも声をかけてあげたい。」「消費者生活に必要な知識を分かり易くお話をして頂いて、大変ありがたく感謝致しております。地区でお話しをして行きたいと思っています。」などの感想が寄せられました。

高齢者を中心に引き続き消費者被害が後を絶たない中、自立した消費者となること、近所の高齢者の見守りにつながることを目指して進めていきます。



## ●岡山市消費生活センターとNPO消費者ネットおかやまとの懇談会【10月23日 岡山市市役所】

市消費生活センター所長より自立した市民の育成、消費生活センターを市民にみせていくことなどの挨拶が行われ、続いてNPO法人消費者ネットおかやま事務局長より、検討委員会の取り組みなどにふれ挨拶を行いました。市消費生活センターより、市に寄せられた主な相談内容などの報告、消費者ネットおかやまから啓発活動、消費者被害防止事業や消費者月間の取り組み、何でも相談会の開催や県との協同の取り組みなどについて、説明しました。意見交換では、適格消費者団体への見通し、生協との協力の可能性について出されました。今後も、協力して取り組みを進めていくことを確認し終了しました。



## ●消費者月間 消費者被害撲滅キャンペーン【5月6日】

消費者月間の一環として行政と消費者団体（消費者ネットおかやま3名、消費者団体連絡協議会3名、県消協2名参加）が協同で「消費者被害撲滅キャンペーン」として宣伝活動を行ないました。行政から14名が参加し、全体で22名によりキャンペーングッズ7000部を配布しました。



# 会員生協トピックス

## グリーンコープ生協おかやま

2013年度はこれまで以上に地区での主体的な活動が活発化し、各地区委員会で様々な催しを行ってきました。地区委員会が主催した催しは28回で、述べ500人近い参加者を迎え、また、秋に行った10周年記念まつりでも2,000名を超える来場者を迎えるなど、これまで以上に地域に根ざした組合員活動を行うことができました。



## 倉敷医療生協

### まちづくり委員研修で神戸へ

「震災の経験から学び、減災、助け合いのできる取り組みをすすめたい」と、まちづくり委員会で神戸へ研修に行きました。神戸医療生協では、震災時の「大地震なんかに負けへんで」の会の活動を教えていただきました。「人と防災未来センター」では映像や展示で震災時のようす、被災者体験談もお聴きしました。学んだことをこれからの活動につなげていこうと話合っています。



### 宇都宮健児氏迎え学習会

「改革」の名のもとに社会保障制度が大きく変えられようとしている今こそ、憲法を生かした社会保障制度のあるべきかたちを学ぼうと、11月27日に水島公民館を会場に組合全体学習をおこないました。宇都宮健児氏（前日本弁護士連合会会長）を講師に『広がる貧困と憲法25条』と題して講演をしていただきました。各地から250人が参加。「憲法をいかすための具体的な行動が必要」と提起もされました。



## 三井造船生協

11月4日（月）玉野レクセセンターで、第7回生協ふれあい祭りが開催されました。

ステージイベントでは、地域密着を目的として、地元の保育園児による鼓隊演奏、地元で活躍するキッズダンスやフラダンスグループがイベントを盛り上げました。また、家庭会によるミニバザーコーナーを中心とした販売コーナーは、バザー商品に加え、地元高校生によるスイーツ販売や、とれたて新鮮野菜などが並び、大勢のお客様でにぎわいました。



玉野市省資源・省エネルギー推進実行委員会が主催する「第8回くるりんクルクル～省資源・省エネルギー展」が、10月27日（日）に開催され、三井生協家庭会環境委員会のメンバーが参加しました。メンバーが製作したリサイクル品を使った作品を展示したり、子供たちを対象とした製作コーナーで、実際に作品作りを体験してもらって、リサイクル活動の推進に携わりました。





## 岡大生協

### <受験生応援の対応>



岡山大学生協では毎年、さまざまな受験生の不安を解消するために、生協学生委員会のスタッフを中心に、ＪＲ岡山駅での道案内とキャンパス内の道案内・受験生相談の対応を行っています。

また、受験生に付き添って来られる保護者様を対象とした「受験時保護者説明会」を開催し、お子様の受験はもちろんですが、その後の「入学準備」や「一人暮らしのお部屋事情」への不安を少しでも解消して頂けるようにアドバイスを行っています。



## 岡山県労済生協

全労済岡山県本部では知的発達障害のある方々がスポーツを通じて社会交流をおこなうSON（スペシャルオリンピックス日本）・岡山の活動を支援しています。

2013年は3つの競技会に職員をボランティアスタッフとして派遣しました。



### ボウリング競技会

- ①開催日…2013年7月13日（土）
- ②開催場所…両備ボウル
- ③全労済からの参加者数…16名



### 陸上競技会

- ①開催日…2013年10月12日（土）
- ②開催場所…神崎山陸上競技場
- ③全労済からの参加者数…11名



### バドミントン競技会

- ①開催日…2013年11月17日（日）
- ②開催場所…岡山市総合文化体育館
- ③全労済からの参加者数…17名

## 津山医療生協

11月12日、「チームで伝えるおもてなしの心」と題してANAビジネスソリューションから山田貴子さんを講師にお招きして、接遇研修会が開催されました。話し方や聞き方のポイント、お待たせ感を緩和する言葉がけ、清潔感のあるみだしなみなどのお話とあいさつやお辞儀の実技がありました。

12月7日、健康集会が開催されました。毎年12月最初の土曜日に開催しています。今回は津山市の作業療法士の安本さんに講師をお願いして、「こけない体づくり」についてお話を伺いました。津山市内180カ所の会場で毎週こけない体操がおこなわれており集うことで体操に加えて食事会やゲームをするところも生まれているそうです。



## 岡山医療生協

岡山医療生協では例年12月に「平和のつどい」を行っています。今年の「平和のつどい」は12月12日（木）、弁護士の伊藤真氏を講師に、「憲法のいきづく国に」と題した講演会を行い、日本国憲法や自民党の改憲草案について、あるいは平和な日本を守るために私たちにできること、などについて学びました。

参加者は151名。毎年恒例の「平和サークルおるづる」による“すいとん”も振舞われ、伊藤真さんを始め大勢の参加者が舌鼓を打ちました。書籍販売とサイン会にも列ができ、平和の大切さを実感する一日となりました。



# 会員生協トピックス

## 岡山県学校生協

### 2013年度末退職予定の組合員さまを対象にエンジョイライフセミナー Pert I を開催しました。

2013年10月12日におかやま西川原プラザに於いて、来春ご勇退される組合員さまを対象に新しく始まるもう一つの人生「セカンドライフ」を迎えるにあたり、早い段階からの備えが必要です。定年後のライフプラン(FP)を考えるきっかけとなればとエンジョイライフセミナーを実施しました。

お忙しい中、45人の組合員さまにご参加いただき、色々のご意見やご感想をいただきました。その一部を下記にご紹介いたします。また、PertⅡは2014年2月22日を予定しています。

#### 参加者アンケートの一部掲載

- ・FP講演は、興味ある内容でした。
- ・ラストプランニングノートは自分でもつけていってみたいと思いました。
- ・講演はとても役にたちそうです。帰ったらさっそくプランニングノートを記入してみようと思います。
- ・楽しいお金の残し方についてもう少しお聞きしたかったです。
- ・年金について いくらぐらいもらえ、不足はどのくらいか(一般的な生活として)不足は何で準備するのがよいか(運用?、生命保険は有用?)
- ・学校生協組合員証が本人だけでなく同居の家族も使えることは知らなかった。
- ・自動車保険の団体扱いも知らなかった。
- ・同じ時に退職する仲間と情報交換ができてよかったです。



## おかやまコープ

### フィリピンの超大型台風による甚大な被害に対して「フィリピン台風緊急募金」に取組み、組合員の皆さんから650万円を超える募金が寄せられました。

11月8日にフィリピンに上陸した台風30号は、多くの地域に甚大な被害をもたらしました。電気が寸断され、水や食糧、医療物資が不足し、災害から1ヶ月の状況では、672万人の子どもたちが被災し、現在でも168万人の子どもたちが避難生活を送っています。現地では、感染症防止に必要なきれいな水の提供や大規模な予防接種キャンペーンに取り組むなど、様々な支援がすすめられています。

おかやまコープでは、11月下旬から12月中旬にかけて、ユニセフ「フィリピン台風緊急募金」に取組み、一ヶ月足らずの間に、650万円を超える支援の輪が広がりました。これらの募金は、ユニセフ協会を通じて、現地でのユニセフ被災者支援活動に活用されます。



### コープでワクワク「おしゃべりパーティー」 今年も7万人が参加！



今年で3年目となるコープでワクワク「おしゃべりパーティー」が10月に県下各地で開催され、今年も7万人のひととひとのつながりが深まりました。この取組みは、商品を囲んで交流する集まりで、「人と人とのつながりが希薄になりつつある地域社会の中で、人と人とのつながりを大切にする」きっかけづくりをおかやまコープが応援している企画です。今年も15,000ヶ所で開催され、おしゃべりに花が咲きました。





## 会員紹介 (設立期順)

### 岡山県学校生活協同組合

**代表者名** 理事長  
梶原 洋一

**組合員数** 17,736 人

**出資金** 135,329 千円

**供給高** 855,014 千円

**活動エリア** 岡山県下、保・  
幼・小・中・高校・  
大学職域 (県下全域)



#### 設立登記年月日

1949年8月22日

**役員数** (常勤) 2人 (非常勤) 12人 (監事) 3人

**職員数** (正規) 7人 (内1人出向) (パート) 1人

#### 概略

岡山県学校生活協同組合は、県下公私立の保育園・幼稚園・小学校・中学校・高等学校等・大学、教育庁関係職場に勤務される方とその職場を退職された教職員を対象とした職域生協で、組合員より拠出された出資金により運営される事業体です。

学校生協は、1949年に発足以来、組合員の皆さまとともに幾多の困難を乗り越えながら、今日まで発展してきました。今、私たちを取り巻く状況は、行先不透明で不安をかかえたまま推移しています。こういう時だからこそ「平和やくらしを守る生協運動」の果たす役割がますます大切になってきています。今後とも、学校生協事業を魅力あるものに変革しながら、生協本来の活動に邁進し、組合員の福利厚生を担う事業体として更に活動を続けてまいります。

### 三井造船生活協同組合

**代表者名** 理事長  
武部 吉治

**組合員数** 25,430 人  
(2013年10月末日現在)

**出資金** 536,503 千円  
(2013年10月末日現在)

**供給高** 4,615,024 千円  
(2012年度)

**活動エリア** 玉野市、岡山市、  
倉敷市



#### 設立登記年月日

1950年11月

**職員数** (正規) 113人 (2012年度末)

(定時) 71人 (2012年度末)

#### 概略

創立以来『人とひとのつながりを大切に、健康で心豊かなくらしの実現を目指します』の理念のもと、現在では職域ばかりでなく、地域組合員のくらしを支える共同相互組織として、店舗 (玉野市内に5店舗) 及び共同購入での供給事業や、葬祭事業、福祉介護事業、旅行業、共済事業など幅広く展開しています。

また、組合員活動では1956年に結成した家庭会 (地域組合員組織) を中心として環境問題や福祉活動その他安全な商品の提供にも積極的に取り組んでいます。中でも家庭会チャリティーバザーは第1回目の1979年から連続35年間、毎年その収益金を玉野市の社会福祉事業へ寄贈 (累計で1,693万円) など、まさに地域社会にしっかりと根ざした活動となっています。

これら、事業及び組合員活動の歴史を礎に、組合員による・組合員のための生協、安心・安全をキーワードとした生協、また、人と環境にやさしい地域社会づくりに貢献できる生協をめざします。

くらしの中に、そして地域の中に生協がある。

~こういう生協をめざして~

### 岡山医療生活協同組合

**代表者名** 理事長  
吉崎 振起

**組合員数** 62,534 人  
(2013年11月末現在)

**出資金** 1,831,356 千円  
(2013年11月末現在)

**供給高** 7,689,512 千円  
(2012年度)

**活動エリア** 岡山県下一円



#### 設立登記年月日

1952年10月21日

**役員数** (常勤) 9人 (非常勤) 26人 (監事) 5人

**職員数** (正規) 663人 (定時) 295人

#### 概略

岡山医療生協は、いのちと心を大切にします。

1952年に設立された当組合は、現在2つの病院、4つの診療所、11の介護事業所、健診センターで構成され、健診から急性期医療～在宅まで、地域の皆さまの様々な要望にお応えしています。

当組合では、設立当初より「いのちの平等」を掲げ、人権を大切にしたい医療・介護をすすめています。そのため、入院時も部屋代 (室料差額) を頂かないことや、2012年1月には2つの病院で無料低額診療事業 (患者さんの負担能力に応じて、窓口負担分を無料又は低額にする制度) を開始し、拡大する貧困への対応を強めています。

また、地域では安全・安心のまちづくりをめざし、健康づくりの他に安否確認を含む機関紙の手配り・配食弁当・サロン・誕生日訪問、子育て支援では岡山協立保育園と連携し、病院・診療所探検隊や夏休み宿題応援隊など、世代を超えた多彩な企画に取りくんでいます。

これからも岡山中央福祉会や他の医療機関・施設等との連携をすすめ、医療・介護・福祉と地域の組合員活動が一体となり、より良い地域社会の実現をめざしたいと思います。

### 倉敷医療生活協同組合

**代表者名** 代表理事 谷 謙一

**組合員数** 64,095 人

**出資金** 1,622,366 千円

**供給高** 101.1 億円

**活動エリア** 岡山県全域



#### 設立登記年月日

1955年2月28日

**役員数** (常勤) 10人

(非常勤) 19人 (監事) 5人

**職員数** (常勤) 806人 (定時) 460人

#### 概略

倉敷医療生活協同組合は、センター病院の水島協同病院を中心に、全体で3病院、5医科診療所、7歯科診療所、3訪問看護ステーション、3ヘルパーステーションに加え、老健施設、倉敷市の高齢者支援センター、助産院など多彩な機能を持った30余の事業所を有して、医療・介護・福祉と健康づくりのネットワークを展開しています。

昨年、組合は創立60周年をむかえ、将来を見据えた質の強化や災害にも強い安全・安心な事業所づくり、住民の避難場所確保などの課題を内容とした「事業継続性 (Business Continuity)・発展のための戦略 (案)」を提起しました。今年は、玉島協同病院の高台への移転新築 (11月竣工予定)、水島協同病院非常用電気設備の増設・高架 (国の補助金決定) を完成させ、健寿協同病院・老健あかねの移転新築の準備等をすすめてまいります。同時に、新規事業に必要な土地代相当の出資金結集をすすめます。また、健康で明るいまちづくりをすすめるという医療生協の社会的役割が果たせる組織づくりの課題などにとりくみます。組合員、地域住民の切実な思いに寄り添い、「人が人として大切にされる社会」をめざし、全力をあげてまいります。

## 会員紹介 (設立期順)

### 生活協同組合おかやまコープ

代表者名 理事長 平田 昌三  
組合員数 329,617 世帯  
(2013年11月末日現在)  
出資金 106.1 億円  
(2013年11月末日現在)  
総事業高 383 億円  
(2012年4月1日～2013年3月31日)  
活動エリア 岡山県一円 (定款エリア)  
設立登記年月日 1956 年 6 月 13 日



役員数 (常勤理事) 4 人 (非常勤) 14 人  
(常勤監事) 1 人 (監事) 4 人  
職員数 (正 規) 444 人 (定 時) 1,649 人 (2013年11月末日現在)  
概 略

おかやまコープは、岡山県内の 4 割を超える 32 万世帯が加入する県下最大の消費者組織です。宅配と店舗での食品や日用品などを供給する購買事業を中心に、COOP 共済《たすけあい》などの共済事業、訪問介護やデイサービスなどの福祉事業を行っています。

品質マネジメントシステムの国際規格 ISO9001 を取得しています。また、商品トレサビリティの取り組みや「食の安全総合政策」の策定など、安全・安心な商品の提供や産直事業、地産地消の取り組みをすすめる、循環型農業を応援しています。

商品学習や産地交流などの商品活動やたべる・たいせつ活動、省エネ活動やリサイクル活動、マイバッグ運動などの環境の取り組み、核兵器と戦争のない世界をめざしての平和活動、ユニセフや AMDA への支援をすすめる国際協力支援活動、「子育てひろば」などの子育て応援活動やお互いさまの気持ちで支えあう「は～とふるネット」の活動など、多彩な組合員活動にも取り組んでいます。

また、安心してくらせる地域づくりを地域の皆さんとつながって一緒に幅広くすすめていこうと、くらしの困りごとの解決にお役立ちする「生活支援サービス」や里山・里海づくりの取り組み、行政との連携協定の締結などをすすめています。

子会社のコープP&Sでは、旅行、飲食、葬祭や保険などの斡旋事業を行っています。また、子会社のコープファームおかやま、ハートコープおかやまを設立し、障がい者を雇用したトマト生産の準備をすすめています。

### 岡山県労働者共済生活協同組合

代表者名 理事長 石田 一  
組合員数 21 万 1,107 人  
出資金 12 億 6,021 万 8,400 円  
契約件数 7 万 7,621 件 (43 万 2,405 件)  
契約口数 28 万 9,811 口 (5,014 万 4,302 口)  
給付件数 3,486 件 (2 万 8,454 件)  
給付金総額 2,376 万 7,500 円 (41 億 4,074 万 2,171 円)  
活動エリア 岡山県一円  
設立登記年月日 1961 年 4 月 1 日



役員数 (常 勤) 2 人 (非常勤) 26 人  
職員数 1 人 (25 人) ※ ( ) 内は連合会実績  
概 略

岡山県労働者共済生活協同組合 (全労済岡山県本部) は、営利を目的としない保障の生協として、岡山県と厚生労働省の認可を得て事業運営を行っています。

当生協は、「みんなでたすけあい、豊かで安心できる社会づくり」を理念とし、組合員の皆さまの「安心とゆとりある暮らし」をめざした活動を行っています。

これからも、「組合員の全労済」「正直な全労済」「努力の全労済」を信条とし、組合員のくらしを何よりも大切とし、組合員や地域社会からの信頼に応え、社会の発展のために行動し、たすけあいの心を大切にすることにより、全労済に関わるすべての人の満足に向け努力し続けます。

### ヤンマー農機製造岡山地区生活協同組合

代表者名 代表理事 木村 正道  
組合員数 363 人  
出資金 363 千円  
供給高 18,758 千円  
活動エリア 職域 (工場内)  
設立登記年月日



1965 年 1 月 25 日  
役員数 (常 勤) 0 人 (非常勤) 8 人  
職員数 (正 規) 1 人 (定 時) 0 人  
概 略

当生協は新岡山港の近くの YANMAR 農業機械の総合機械メーカーとして 2013 年 4 月に新たにスタートしたヤンマー農機製造内で活動しています。

組合員数約 360 名と限られた範囲での活動ですが、今まで以上に安定経営および、組合員の要望にそった活動が出来るよう一層の努力が問われています。

一年間を通じての地域の公園や遊歩道のクリーン作戦も回を重ね、これからも地域とのつながりを大切にしていきたいと思っています。

### 津山医療生活協同組合

代表者名 理事長 井ノ上義明  
組合員数 7,249 人  
出資金 97,813 千円  
供給高 378,121 千円  
活動エリア 定款区域  
(主には津山市と津山市周辺町村)



設立登記年月日 1980 年 8 月 12 日  
役員数 (常 勤) 1 人  
(非常勤) 17 人  
(監 事) 4 人  
職員数 (正 規) 21 人  
(定 時) 22 人

#### 概 略

津山医療生協は、患者・利用者の権利を尊重し、親切でやさしい医療・介護をこころがけ、地域の人達の命と健康を守るために全力を尽くしています。

高齢化社会が進み、医療や介護、暮らしをめぐる生活の環境が変わる中で、診療所・訪問看護ステーション・ケアプランセンター・ヘルパーステーション・デイサービスなど保健・医療・福祉 (介護) のネットワークをひろげ、365 日安心・安全の医療・介護サービスの充実と組合員との協同による健康づくり・まちづくりを進めています。

2013 年 4 月すべての事業所、本部、組合員ホールが一つにまとまった施設がオープンしました。医療介護だけでなく組合員の健康づくりの活動や学習等に利用されています。



## 会員紹介 (設立期順)

### 岡山大学生協同組合

代表者名 理事長  
田口 勇仁  
組合員数 15,035 人  
出資金 245,422 千円  
供給高 2,080,262 千円  
活動エリア 岡山大学津島・  
鹿田キャンパス



設立登記年月日  
1995 年 2 月 20 日  
役員数 (常勤) 2 人  
(非常勤) 28 人  
(監事) 4 人  
職員数 (正規) 20 人  
(定時) 160 人

#### 概 略

岡山大学生協同組合は岡山大学の学生・教職員の手によって 1994 年 12 月に設立されました。

大学生協は、大学の福利厚生事業の担い手として、学生・教職員組合員に良い品をより安く、より便利に提供するとともに、教育・研究の場としての大学にふさわしい様々な活動を行っています。

岡山大学では、津島キャンパスのマスカットユニオン・ピーチユニオン・ピオーネユニオン及び鹿田キャンパス医学部記念会館という大学の福利施設の中で、構成員のニーズにもとづいて、購買・書籍事業、旅行事業、食堂事業、共済事業、住生活支援事業など幅広い事業に取り組んでいます。

### グリーンコープ生活協同組合おかやま

代表者名 理事長  
黒田 明穂  
組合員数 5,826 人  
出資金 157,815 千円  
供給高 762,417 千円  
(2013 年  
3 月 20 日現在)



活動エリア 岡山市・倉敷市・赤磐市・瀬戸内市・  
総社市及びその周辺地域 (共同購入と個配事業)

設立登記年月日  
2003 年 8 月 13 日  
役員数 (常勤) 2 人 (非常勤) 11 人 (監事) 3 人  
職員数 (職員) 18 人 (定時職員) 15 人  
概 略

グリーンコープ生協おかやまは、安心・安全な食べものを求め、環境問題や地域福祉、平和の取り組みなどに関心ある消費者が集まり、2003 年 8 月に設立しました。

無・減農薬で栽培された青果・農産物や遺伝子組み換えされていない飼料で育てた畜産物、なるべく添加物を使わずにつくった加工品など「いのちを育む食べもの」を、組合員に届けています。また、生産者やお取引先メーカーとの「顔の見える関係」を大切にすることで、組合員世帯の食の安全を守るとともに、国内の農畜産業を守っていく取り組みとして位置づけを進めています。

今の時代、経済と社会不安が大きくなっていく中で、一番大切な事は「信頼」です。組合員と地域の人々との「助け合っていく。支えあっていく。」をつくっていくことができる生協を目指して参ります。

## 県生協連会員生協名簿

| 会 員 生 協 名          | 住 所                           | 電話・FAX                               |
|--------------------|-------------------------------|--------------------------------------|
| 岡山県学校生活協同組合        | 〒703-8258<br>岡山市中区西川原 255     | TEL 086-272-4033<br>FAX 086-272-4034 |
| 三井造船生活協同組合         | 〒706-8501<br>玉野市玉二丁目 5-5      | TEL 0863-31-5566<br>FAX 0863-31-7459 |
| 岡山医療生活協同組合         | 〒703-8288<br>岡山市中区赤坂本町 2-20   | TEL 086-271-0943<br>FAX 086-271-7854 |
| 倉敷医療生活協同組合         | 〒712-8025<br>倉敷市水島南春日町 13-1   | TEL 086-444-4321<br>FAX 086-448-4150 |
| 生活協同組合おかやまコープ      | 〒700-0026<br>岡山市北区奉還町 1-7-7   | TEL 086-256-2511<br>FAX 086-256-2585 |
| 岡山県労働者共済生活協同組合     | 〒700-0024<br>岡山市北区駅元町 6-26    | TEL 086-254-2155<br>FAX 086-254-8116 |
| ヤンマー農機製造岡山地区生活協同組合 | 〒702-8004<br>岡山市中区江並 428      | TEL 086-276-8111<br>FAX 086-276-8152 |
| 津山医療生活協同組合         | 〒708-0872<br>津山市平福 546-1      | TEL 0868-28-2057<br>FAX 0868-28-3835 |
| 岡山大学生協同組合          | 〒700-8530<br>岡山市北区津島中 2-1-1   | TEL 086-251-7207<br>FAX 086-256-0445 |
| グリーンコープ生活協同組合おかやま  | 〒700-0973<br>岡山市北区下中野 311-113 | TEL 086-805-2566<br>FAX 086-805-2569 |



# 岡山県生活協同組合連合会紹介



## 概 況

1959年9月に創立総会を開催して設立された岡山県生協連は、当初17生協の参加でスタートしました。現在、10の会員生協に、延べ74万余世帯の組合員が加入する県内最大の消費者組織となっています。

購買生協は地域・職域の6生協、医療生協は3生協、それに労済生協とで構成されています。

生協は、県民の生活の安定と生活文化の向上に努めており、組合員のくらしと地域社会にとってなくてはならない存在となっています。

代表者名 会長理事 近藤 清志

会 員 数 10生協

会員総組合員数 746,599人 (2013.3.31)

会員総出資金 1,627,280万円 (2013.3.31)

会員総事業高 7,253,059万円 (2013.3.31)

設立登記年月日 1960年3月2日

役 員 数 (常勤理事) 1人

(理 事) 12人

(監 事) 3人

職 員 数 (定 時) 1人

## 役員構成

|         |       |                         |
|---------|-------|-------------------------|
| 会 長 理 事 | 近藤 清志 | 常勤                      |
| 副会長理事   | 平田 昌三 | (生活協同組合おかやまコープ理事長)      |
| 副会長理事   | 武部 吉治 | (三井造船生活協同組合理事長)         |
| 副会長理事   | 谷 謙一  | (倉敷医療生活協同組合専務理事)        |
| 理 事     | 大山 健二 | (岡山大学生協同組合専務理事)         |
| 理 事     | 加藤 孝昭 | (岡山県学校生活協同組合専務理事)       |
| 理 事     | 木村 高清 | (岡山医療生活協同組合専務理事)        |
| 理 事     | 児島 和則 | (津山医療生活協同組合専務理事)        |
| 理 事     | 三堀 明人 | (グリーンコープ生活協同組合おかやま専務理事) |
| 理 事     | 和泉かよ子 | (倉敷医療生活協同組合常務理事)        |
| 理 事     | 田中 敦子 | (生活協同組合おかやまコープ理事)       |
| 理 事     | 原田美智子 | (三井造船生活協同組合理事)          |
| 監 事     | 青井 昭洋 | (岡山県労働者共済生活協同組合管理部部長)   |
| 監 事     | 岡本 秀雄 | (生活協同組合おかやまコープ常勤理事)     |
| 監 事     | 河本志津恵 | (岡山医療生活協同組合常任理事)        |
| 参 与     | 安場 靖  | (前会長理事)                 |